



■ 主な内容 ■

- P2～3 あの時を忘れない
東日本大震災から1年
- P4～7 4月1日から市役所の組織・機構が
変わります
- P13 人面付土器“いずみ”修復中！最終回
- P16 コスタリカから^{オラ}Hola！ Vol.1

Music Festival ～音楽万歳～
音楽ができる喜びをかみしめて

あの時を忘れない

東日本大震災から1年

突然襲った強い揺れ

平成23年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0を記録する地震が東北地方太平洋沖で発生。常陸大宮市では震度6強が観測されました。

大地震の爪痕

この地震により、関東・東北地方では電気・水道などのライフラインが寸断され、電話がつかまらない、津波が発生するなどし、甚大な被害をもたらしました。

市内では、幸いにも死者はいなかったものの、地割れ、陥没、土砂崩れが各地域で見られ通行に支障を来しました。また建造物に至っては、塀や屋根瓦が崩れ落ち、文化財が倒壊したり、公共施設の天井が崩落したりするなど、多くの建物が損壊しました。

皆さんから届いた善意

震災直後から、災害協定を結んでいる東京都豊島区や、豊島区と災害協定を結んでいる埼玉県三芳町、岐阜県関市ほか市内の店舗等からも救済物資が届けられました。そして、大阪市からは災害医療派遣チームが医療支援のために、埼玉県大宮駐屯

地と山梨県北富士駐屯地の自衛隊が炊き出し、給水、物資輸送の支援のためにかけつけてくれるなど、たくさんの方に支えられて窮地を乗り越えることができました。さらに多くの義援金等もお寄せいただき、その総数・総額は3月1日現在で、428件、2576万6124円となっています。

震災の教訓を生かして

震災後、被害を受けた公共施設等の中には、補強工事等が完了し使用を再開した施設等もありますが、使用できない公共施設等が多くあるのが現状です。市ではこれからも、復旧そして復興のための事業を最優先し実施します。

また、平成24年度から平成28年度までの5年間で計画期間とする「常陸大宮市総合計画後期基本計画」に、東日本大震災や福島第一原発事故の経験を踏まえ「安全・安心なまちづくり」を重点事項の一つとして盛り込みました。

具体的には、平成18年に策定した地域防災計画の見直しを行います。そして、毎年実施している総合防災訓練の内容を充実させ、自主防災組織を育成する等災害対応力の強化を図ります。また、緊急時の給水ルート確保や井戸水の活用を検討し、

東日本大震災に伴う被害状況等

平成23年3月11日 午後2時46分地震発生
震度6強（マグニチュード9.0）

■被害状況（2月29日現在）

◎人的被害

- 死者 0人 ●重傷 0人
- 行方不明者 0人 ●軽傷 7人

◎物的被害（り災証明発行件数による）

- 住宅 全壊 11件 大規模半壊 11件
半壊 70件 一部損壊 4,385件
- 付属家等 全壊 67件 大規模半壊 15件
半壊 50件 一部損壊 757件

◎避難所の状況

- 延べ避難者数 1,595人
- 開設数 19カ所
- 避難所開設期間 3月11～19日まで（9日間）

◎ライフライン

- 電気 市内全域で停電
3月13日一部復旧 3月17日市内全域で復旧
- 水道 水道管破損等により市内全域で断水
3月16日一部復旧 3月23日市内全域で復旧

◎市有財産被害総額

約36億円 消防・文化・学校・道路・上下水道・文化・観光施設及び市役所庁舎等の被害

地震発生から1年たった今

電気と水道が止まり、食料の供給が滞り、ガソリンが不足した…。それまで当たり前だった生活が、地震発生を境に一変しました。その

災害時にも有効な太陽光発電システムなど、自然エネルギーを推進します。さらに、災害時に援護が必要の方が避難できる福祉避難所などを設置し、災害弱者に対応できる体制を整え防災施設の充実に努めます。

ような状況のなか、当たり前前の生活ができることのありがたさを再認識した方も多かったことと思います。あの日から1年。あの時感じたことを忘れてしまつてはいませんか？そしてあの時、誓った災害への備え、忘れてしまつてはいませんか？平穏な生活ができる今の状況に感謝しつつ、あの時何に困ったか、何が必要だったか、もう一度思い出してください。災害はいつ起きるか分かりません。災害に備えましょう。

ご存知ですか？

地震発生時、回線が混雑しつながりにくくなり、連絡したい相手に電話がつかないで困ったり、不安になったりした方が多かったことと思います。

「家族が無事か確認したい」

「職場に自分が無事でいることを知らせたい」

そんな時…

NTT災害用伝言ダイヤルをご利用ください

地震などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。事前契約は不要です。

毎月1日と15日には体験利用ができます。

- 利用できる端末 NTTの一般電話、公衆電話、携帯電話、PHS
- 録音時間 1伝言30秒以内
- 蓄積伝言数 1電話番号あたり1～10伝言
- 伝言保存期間 2日間（48時間：自動消法）
- 伝言の録音方法

1 7 1 → 1

ガイダンスのあとに、自宅の電話番号等連絡を取りたい方の電話番号をダイヤルしてください。

0 × × × × × × × × × ×

- 伝言の再生方法

1 7 1 → 2

ガイダンスのあとに、自宅の電話番号等連絡を取りたい方の電話番号をダイヤルしてください。

0 × × × × × × × × × ×



4月1日から

市役所の組織・機構が変わります

地方分権社会の到来、高度化・多様化する市民ニーズ、定員適正化計画に基づく職員数の削減、さらには危機管理体制の強化等、緊急の課題に対し、市民サービスの低下を招くことなく、迅速かつ柔軟な政策目標の実現のため、次の基本方針に基づき組織機構の見直しを行いました。

(1)

政策目標を実現するための組織づくり

組織は、政策目標を達成するための重要なツールであることから、政策目標の達成に向けて効率的・効果的な組織づくりを進めます。

(3)

安全安心なまちづくりに向けた組織づくり

東日本大震災等を踏まえ、危機管理体制の強化等緊急課題に迅速に対応し、市民が安全で安心できるまちづくりを推進する組織づくりを進めます。

(2)

簡素で効率的な組織づくり

職員を適材適所に配置するとともに、定員適正化計画の推進を図り、限られた人員で最大の効果を発揮できる組織づくりを進めます。

新しく設置する部署等

秘書広聴課

迅速で的確な情報発信を行い、行政の広報・広聴機能の充実強化を図るため、総務課の秘書広聴室の業務と企画課の広報業務を統合し、政策審議室内に新設します。

企画政策課

政策調整機能の強化及び重要施策等を効果的・効率的に推進するため、政策審議室内に新設します。

安全まちづくり推進課

東日本大震災の経験を踏まえ、新たな行政課題や安心・安全なまちづくりに係る施策を総合的かつ機動的に展開し、関係部署、機関等と連携した危機管理体制の確立を図るため、市民部内に新設します。

道の駅整備推進室

地域振興・活性化の拠点施設として「道の駅」の整備を推進するため、商工観光課内に新設します。

危機管理監

危機発生時に市長を補佐し、迅速かつ的確に処理する役割を担い、さらに危機管理情報の一元的な収集・発信など全庁的な危機管理体制の充実・強化を図ります。

統合する部署

スポーツ振興課と生涯学習課 → 生涯学習課

再編する部署

税務徴収課

歳入・歳出の両面から財政の健全化を推進するため、市民部から総務部へ移管します。

廃止する部署

企画課

業務を政策審議室及び総務部総務課等に移管します。

窓口変更のお知らせ

外国人の方の登録等の窓口が本庁市民課のみとなります。なお、外国人登録記載事項証明書の発行は、これまでどおり各総合支所市民福祉課でも行います。

問い合わせ

企画課 行政改革推進室 行政改革推進グループ
☎52-1111 内線323

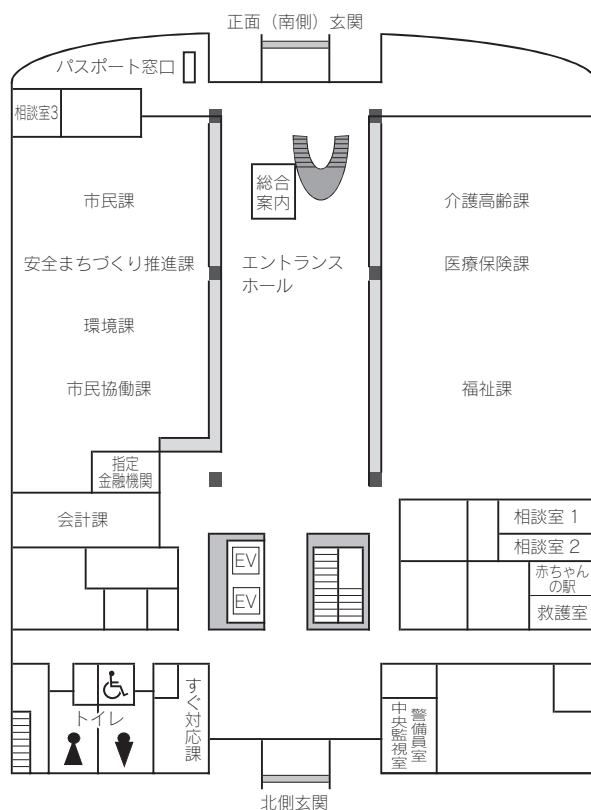


本庁舎各課配置について

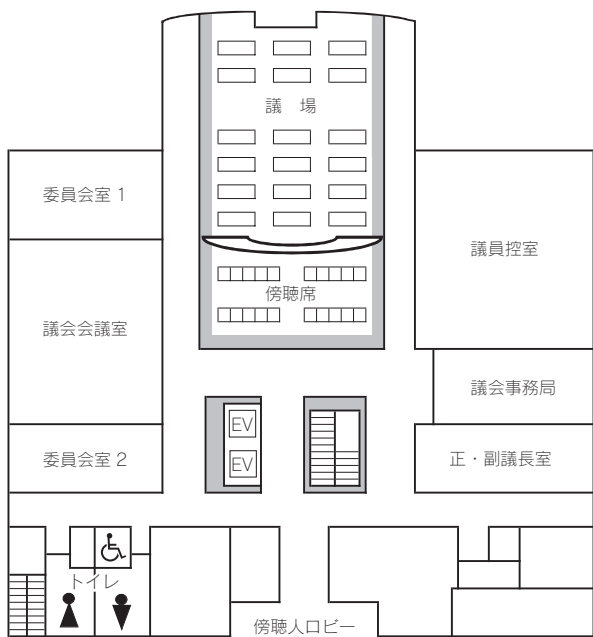
3 階



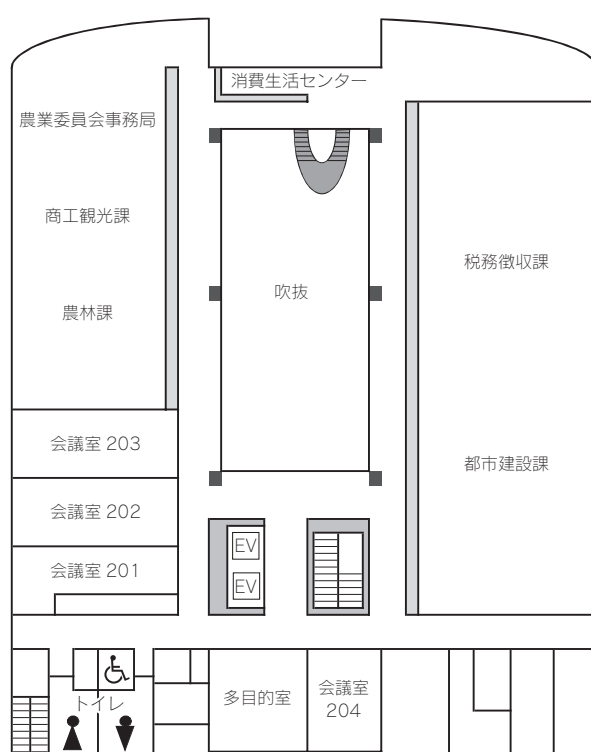
1 階



4 階



2 階



平成24年度 常陸大宮市行政組織・機構図

新設される部署の主な業務は次のとおりです。

○政策審議室秘書広聴課は、秘書業務のほか広報常陸大宮、ホームページ、常陸大宮大使に関する業務を行います。

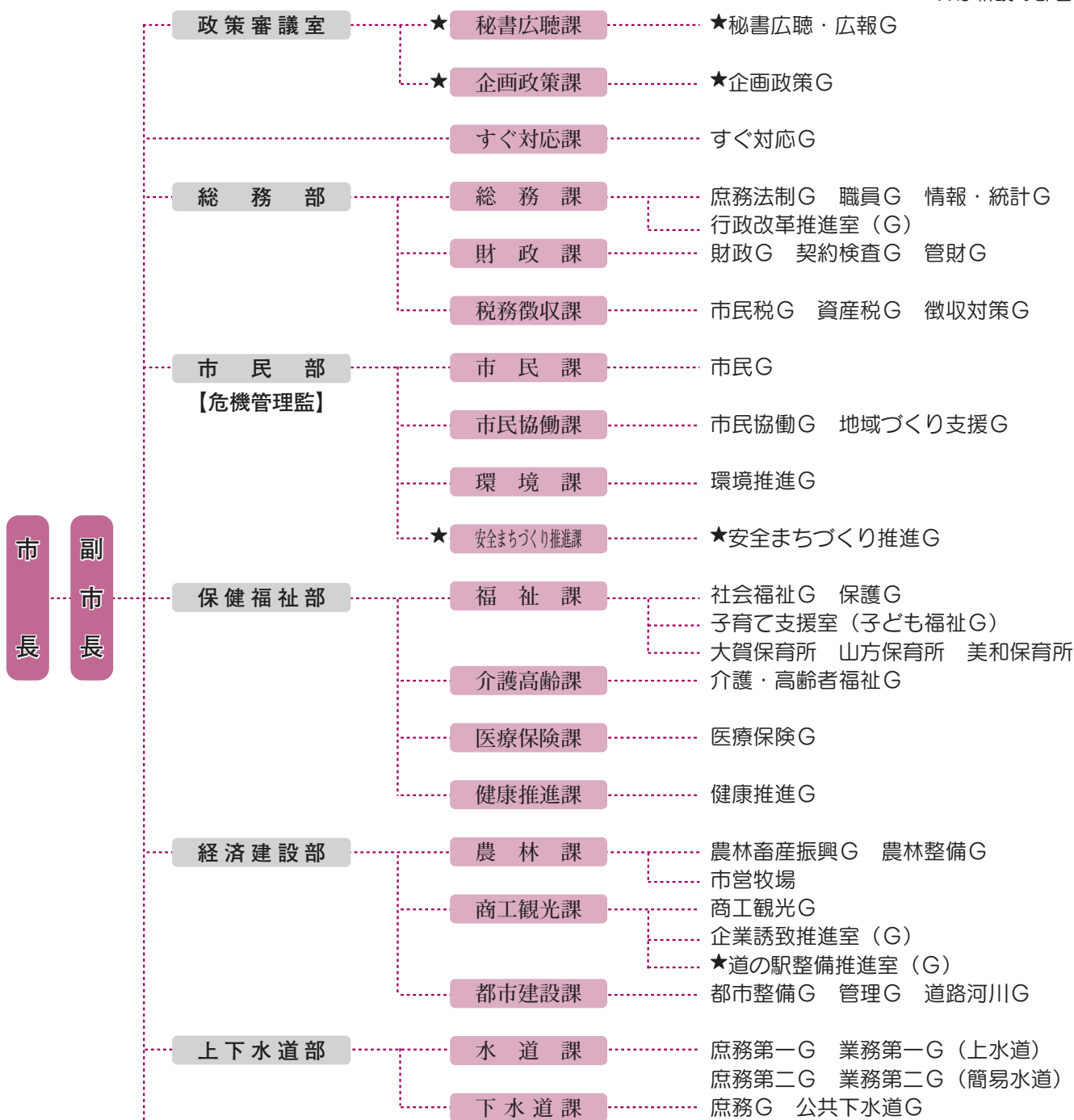
○政策審議室企画政策課は、市の基本構想、重要施策の立案、審議及び総合調整、庁議や公共交通に関する業務を行います。

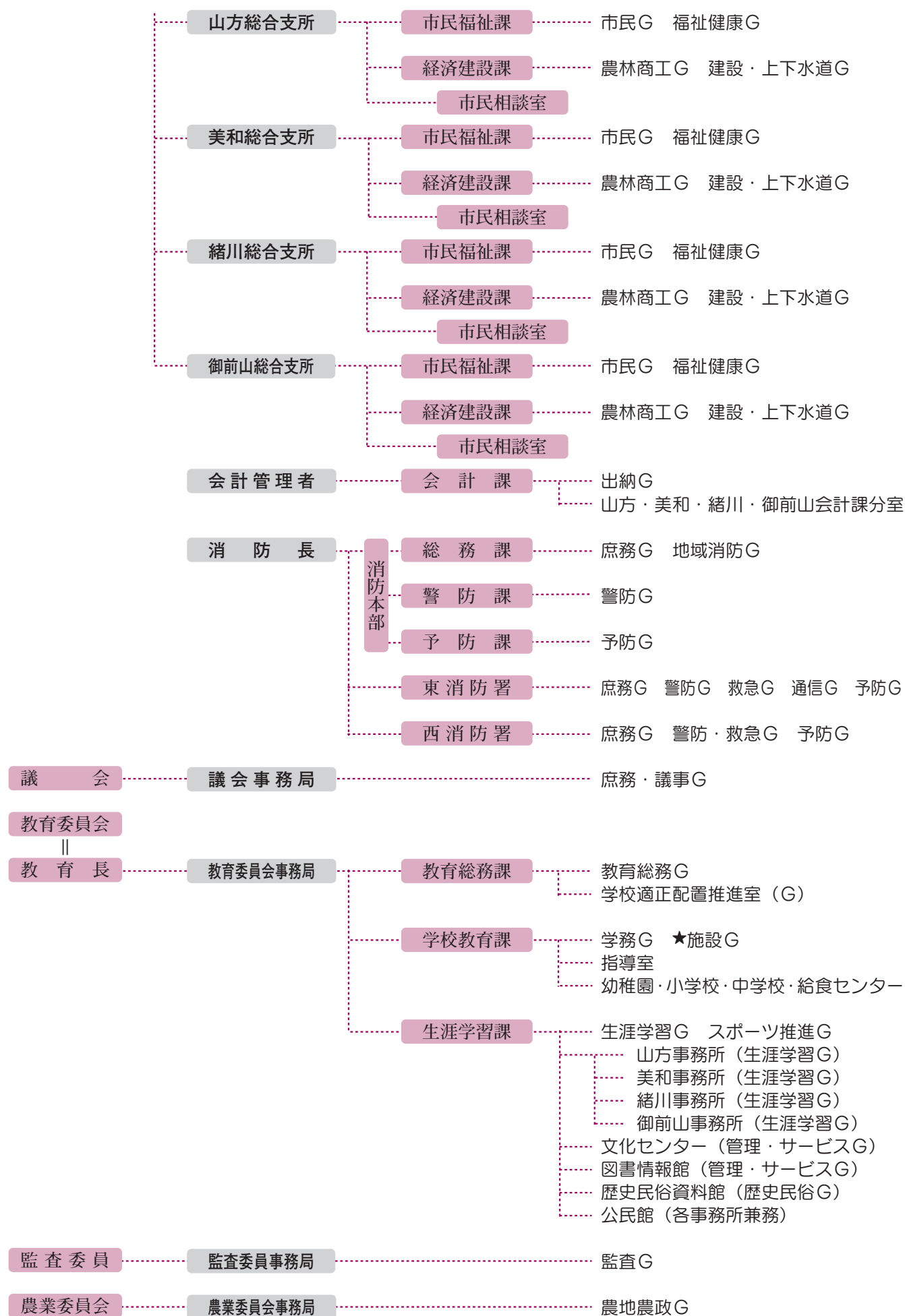
○市民部安全まちづくり推進課は、防災及び災害対策、地域防災計画、防災行政無線、原子力安全対策、防犯、交通安全に関する業務を行います。

○経済建設部商工観光課道の駅整備推進室は、「道の駅」の整備を推進する業務を行います。

○教育委員会学校教育課施設Gは、学校建物の建築及び営繕に関する業務を行います。

※Gはグループ
★は新設の部署





民間自治功労者表彰

後藤愛子さん（上大賀）が、茨城県市長会長より表彰を受けられました。

後藤さんは、大宮町海外派遣事業（平成3～4年度実施）に参加した方々と平成5年に国際交流ボランティア「ばらの会」を立ち上げ、初代会長として平成19年まで務められました。

その間、地域に住む外国人のために、日本語を学ぶ場を提供しようと、「ことばの教室」を始められ、言葉の学習のみならず、日本で生活する外国人の相談にのるなどして、在住外国人の不安解消の手助けをされるとともに、地域の人々との言葉を越えた文化交流の場として、現在まで続けられています。

また、「ねんりんピック2007」でのなぎなた交流大会実施にあたり、なぎなた教室を始められ、現在も、なぎなたの普及発展と地域の方々の健康増進を目指し、活躍されています。



千田D集落が特別賞受賞

2月2日、茨城県庁の講堂で開催された「農業農村シンポジウム2011」（茨城県・水土里ネット茨城主催）で、茨城県美しい水土里づくり優良活動表彰式が行われ、11団体が受賞し、市内から中山間地域等直接支払制度に取り組んでいる千田D集落（蓮田國男代表）が、特別賞の全国山村振興連盟茨城県支部長賞を受賞しました。

千田D集落は、農地間の高低差が大きく、またほ場が不整形なため農地法面の管理や農作業に大変労力がかかるなか、適正に管理し美しい棚田風景を維持していることが高く評価され今回の受賞となりました。



地域活性化を目指して ～諸沢東区集落支援員さんからの報告～



平成22年度より遊休農地を利用してアヤメを植栽し、花の時期にはイベントを開催。アヤメの手入れをしながら地域のコミュニケーションを図ろうと取り組んできました。平成23年度は、6月にあやめ園にて地区内の方々に呼びかけお茶会を開催し、それぞれに楽しんでいただきました。また、12月には一人暮らし老人へ給食サービスを実施し、大変喜んでいただきました。

これからも、地区の方々が参加できるような活動を継続していくことが地区の維持・活性化につながっていくものと考えています。

※人口減少や高齢化の進む集落（11地区）に対して、地域の維持・活性化を図るため、平成21年度に集落支援員を設置しました。

統計功労者表彰

2月17日、茨城県庁で平成23年度茨城県統計功労者表彰式が行われ、次の方々が受賞されました。

- 知事表彰 （敬称略）
井坂 浩幸（野 上）
- 統計協会総裁表彰
木村 英子（東富町） 宮崎 利貞（八 田）
神長 忠義（舟 生） 平塚 辰雄（上檜沢）
- 総務大臣表彰
横山 博史（東 野） 木村 洋一（山 方）
高村 正美（山 方） 木村 宗之（西野内）
吉澤 英雄（小 貫） 石澤 和男（長 倉）
鯉沼 佳一（下檜沢）
- 経済産業省大臣官房調査統計審議官感謝状
寺門 光文（上村田）



▲表彰式に出席された総務大臣表彰受章者の皆さん

ノーマイカーで 地球にやさしく

茨城県公共交通活性化会議主催の「ノーマイカーデーいばらき」が、県内の企業、団体、官公庁等への通勤者を対象に実施されました。

市役所では県内一斉取り組み日の2月10日に実施。日頃、車で通勤している職員513人のうち133人が、徒歩や自転車、公共交通機関の利用に転換するなどして出勤しました。また、三次市長もJR水郡線を利用し常陸大宮駅で下車。駅からは徒歩により登庁しました。

この取り組みは、公共交通機関の利用促進と地球温暖化対策の一環として、毎年2月に実施されているもので、公共交通機関の維持確保や地球温暖化の問題について考えるきっかけとなっています。



音楽万歳！

2月18日、緒川総合センター文化ホールで市内の中学校7校と高等学校2校が参加し、第4回となる「Music Festival～音楽万歳～」が開催されました。



▲緒川中学校2年生による合唱

演奏会は2部構成で行われ、第1部は中学校と高等学校の各吹奏楽部の演奏と中学校の合唱、第2部は中学校による合同演奏及び合唱が行われました。

中高生の心を一つにした演奏に、会場からは大きな拍手が送られていました。

災害に備えて防災訓練実施

2月26日、緒川中学校を会場に、市内の防災関係機関、消防団員、学校及び地域住民等合わせて約620人が参加し、防災訓練が実施されました。

訓練は、東日本大震災と同規模の震度6強の地震が観測されたとの想定で行われました。

また、今回は、災害対策本部を設置しての状況報告等の訓練も本番さながらに行われたほか、平成23年7月に災害時の情報通信に関する協定を結んだ常陸大宮市アマチュア無線クラブも参加し、情報収集と伝達等の訓練も行われました。



▲下敷きになった人の救助を体験

参加者は、地震後初めての防災訓練とあって、真剣な面持ちで救助訓練や初期消火訓練に取り組んでいました。

「赤ちゃんの駅」をご利用ください

市では、子育て支援の取り組みの一環として、市役所本庁1階と山方総合支所1階に人目を気にすることなく授乳やおむつ替えができる「赤ちゃんの駅」を設置しました。

利用時間は土・日曜日・祝日を除く午前9時から午後5時。部屋にはベビーベッドや長椅子が設置されていて市役所等に用事なくても利用することができます。

ぜひご利用ください。



▲この案内板が目印



▲本庁の赤ちゃんの駅

心の健康づくり講演会

3月は、一年の中で最も自殺者が多くなることから、国では平成22年から毎年3月を自殺対策強化月間とし、重点的に広報・啓発を実施しています。

常陸大宮市でも、自殺予防の取り組みとして、2月29日、総合保健福祉センターかがやきで、栗田病院の高橋智之医師と常陸大宮保健所の藤田由紀子保健師を講師に迎え、心の健康づくり講演会を行いました。

講演会には民生委員・児童委員や一般の方約60人が参加。うつ病について理解を深め、周囲の適切な対応が重要なこと、また、自分自身や身近な人の心のサインに気付いた時の対応の仕方を学びました。



平成24年3月で納税組合が廃止になります

平成24年3月末で常陸大宮市納税組合制度が廃止となります。

市納税組合の皆さんには、長年にわたり市税等の納付推進にご理解、ご協力をいただきありがとうございました。

平成24年4月からの納税通知書は、市役所から郵送により直接、各納税義務者に送付します。

市では、安全・安心で、大変便利な口座振替による納税を推進しています。この機会にぜひ口座振替をご利用ください。

■問い合わせ■

税務徴収課 特別徴収対策グループ

☎52-1111(内線 236・237)

～広報常陸大宮1・2月号に誤りがありました～

1月号 P5 誤「賃借対照表」
→正「貸借対照表」

2月号 P4 旭日双光章 河野洪勲さん
誤「(鷺子 地方自治功労)」
→正「(高部 地方自治功労)」

お詫びして訂正します。



子育て支援ネットワーク
「ねすと～NEST～」

主宰 平島 則子さん

Nurse (慈しむ)、Enjoy (楽しむ)、Study (学ぶ)、Tell (伝える)。頭文字をとって、「ねすと～NEST～」。今、若いお母さんたちを中心に広げていこうと考えているネットワークの名前です。子育てのなかで大切にしていきたいキーワードをつなげました。



親子は10組あれば、10通りの係わり方があります。唯一無二の関係です。だからといって、子育ては特別なことではなく、絶え間なく繰り返される日常そのものです。その日常の中に封じ込めてしまいがちな、小さな悩みやストレスを、語り合い、笑い合い、学び合うなかで、次の元気に変えていきたい。そんな思いを胸に、子育て支援から生まれたサークルをつなぎ、ネットワークを紡いでいこうと動き出しました。

若いお父さんお母さんたちの力、どうぞ、ご期待ください！



▲左から 峰捕手、上野投手

2月

4日

トップアスリートクリニック

大宮運動公園市民球場で、北京オリンピックソフトボール競技で金メダルを獲得した上野由岐子投手と峰幸代捕手を講師に迎え、トップアスリートクリニックが開催されました。

デモンストレーションでは、市内の投手を代表して舟生ソフトボールクラブの小久保投手と大宮中女子ソフトボール部の小野瀬投手の2人が峰捕手を相手に堂々としたピッチングを披露しました。

また、球の握り方や構え方等の実技指導も行われ、金メダリストによる指導に、参加者は熱心に耳を傾けていました。



▲小久保投手



▲小野瀬投手



▲実技指導の参加者は約300人

2月

25日

常陸大宮クロスカントリー大会



▲1000m、2000m、3000m、5000mのコースが設けられました



◀東京国際女子マラソン等で優勝し、ランナーそしてタレントとして活躍中の谷川真理さん



◀早稲田大学の選手として、平成24年1月の箱根駅伝に出場した大串顕史さん



▲小瀬高等学校の生徒が大会補助員として参加。
写真は、大会を音楽で支えた吹奏楽部の皆さん

市内ゴルフ場を会場に、約2,100人が参加し、常陸大宮クロスカントリー大会が開催されました。当日は、冷たい雨が降り、滑りやすい悪コンディションでしたが、県内外からの出場者が、アップダウンのあるコースを駆け抜けました。

また、谷川真理さんがゲストランナーとして参加。大串顕史さんも激励に訪れ大会を盛り上げました。

受診だけで 終わらせない！

特定 健康 診 査

特定健康診査は、生活習慣病の発症リスクを見つけることが目的です。そして、リスクの度合により、必要な生活習慣改善のための支援を行うのが特定保健指導です。

特定健康診査と特定保健指導

平成22年度の全国の国民健康保険加入者の特定健診の受診率と特定保健指導の実施率（法定報告）が発表されました。

茨城県全体で見ると、対象者57万4077人のうち受診した方は18万3714人。受診率は32%、順位は全国で26位でした。また、受診後の特定保健指導の利用者数は7615人で実施率は20.9%、順位は24位でした。

そして常陸大宮市は、対象者9509人のうち4856人が特定健康診査を受診し、茨城県で一番高い受診率という結果となりました。

しかし、その後の特定保健指導の実施率を見ると、640人の対象者のうち379人しか実施していないという状況でした。

特定健康診査を受診することはもちろん大切ですが、受診により生活

習慣病の発症リスクを見つけた後、特定保健指導を利用して生活習慣を改善し、発症リスクを軽減・解消して初めて受診の意味があります。

特定健康診査受診率ベスト5

順位	市町村名	受診率	対象者数	受診者数
1	常陸大宮市	51.1%	9,509人	4,856人
2	城里町	48.2%	4,516人	2,176人
3	東海村	47.2%	5,486人	2,588人
4	境町	43.7%	5,929人	2,589人
5	大子町	43.3%	5,171人	2,237人
26	茨城県	32.0%	574,077人	183,714人

特定保健指導実施率ベスト5

順位	市町村名	実施率	対象者数	終了者数
1	潮来市	68.4%	392人	268人
2	五霞町	59.6%	89人	53人
3	常陸大宮市	51.1%	640人	327人
4	北茨城市	42.0%	486人	204人
5	鹿嶋市	38.7%	862人	334人
24	茨城県	20.9%	30,727人	6,413人

特定保健指導利用の有無による 健診結果の改善状況

平成20年度に特定保健指導の対象となった方の21年度の特定健診結果の改善状況を、特定保健指導を利用した場合としなかった場合に比べて比較しました。

すると、特定保健指導を利用した方の方が改善率は高く、男女別に見ても同様の結果となりました。また、平成21年度対象者の22年度の改善率を比較した場合も、特定保健指導を利用した方の方が、利用しなかった方

より改善率は高い結果となりました。このことから、特定保健指導の利用は、健診結果の改善につながるということが分かります。

特定健康診査・特定保健指導を利用し、高血圧や脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病の発症や重症化の予防に努めましょう。

常陸大宮市の健診結果の改善率

		保健指導 利用者の改善率	保健指導 未利用者の改善率
平成20・21年度 健診連続受診者	男	28.90%	12.00%
	女	27.30%	18.00%
	全体	28.10%	15.00%
平成21・22年度 健診連続受診者	男	22.80%	18.60%
	女	22.00%	20.00%
	全体	22.40%	19.30%

※服薬の開始によって改善された方を除く

◎データは茨城県国民健康保険団体連合会提供。
■問い合わせ
健康推進課
（総合保健福祉センター（かがやき）内）

☎5417121

人面付土器

「いずみ」

修復中！最終回



「いずみ」の修復完了！

9月号から7回の連載でお伝えしてきた、泉坂下遺跡より出土した人面付土器「いずみ」の修復とレプリカ作成の工程も、今回が最終回。皆さんに、とっておきのお知らせとともにご報告します。

本物「いずみ」は頭部と胴部がやっと接合。すき間に補強のためエポキシ樹脂を充填し、完全に固まるのを待って、他の充填した部分と同様に補刻を行いました(写真1)。引き続き行った充填部への補彩は、骨董品などとは違い、補修部分であることがはつきりと分かるように、本物と同系の薄い色を用います。照明や日光による色あせを避けるために、塗料とするのは耐光性に優れたアクリル絵の具。本物を汚さないよう、細筆で慎重に彩色し、「いずみ」の修復は完了しました(写真2)。



将来を見据えた文化財の修復

まさに「これからのもの」だった修復前の姿から一変、「いずみ」は「しっかりもの」に生まれ変わりました。しかし、文化財の修復は、単に「しっ

かり」「がっちり」ではいけません。長い間には、不慮の災害による破損や劣化等によって再び修復する可能性もあり、割れ口を強化するために塗った樹脂や接着剤には、薬剤で溶かすことのできるものを使用するなど、将来を見据えた処置が施されているのです。



レプリカももうすぐ完成

前回お伝えした気の遠くなるようなレプリカの補刻は、20日間を費やして終了。2月中旬現在、レプリカも頭部と胴部が接合されて、アクリル絵の具による彩色作業が進行中です(写真3)。本物と見比べながら、目元や顎に残っている赤いベンガラはもちろん、補修した部分も忠実に再現していきます。



「いずみ」文化庁主催「列島展」で全国デビュー

文化庁では、毎年、全国で発掘された貴重な考古資料を一般公開する「発掘された日本列島」展を主催し、東京都立江戸東京博物館を皮切りに、国内各地の博物館を巡回させています。この平成24年度「列島展」に、「いずみ」を含む泉坂下遺跡の遺物の出品が決定しました。すでに、考古学の弥生時代の概説書表紙にも採用されている「いずみ」は、各会場で注目され、常陸大宮市の再葬墓遺跡は、全国的に有名となるこ

とでしょう。



本物とレプリカ
お披露目します

「いずみ」の全国行脚の前に、資料館では、3月27日より、本物とレプリカを並べて展示します。修復等の工程をパネル展示するほか、府中工房 堀江武史さんのご好意により、レプリカ作成に使用した型も展示します。

どちらが本物か、投票も実施。さて、本物とレプリカ、皆さんは見分けがつくでしょうか？



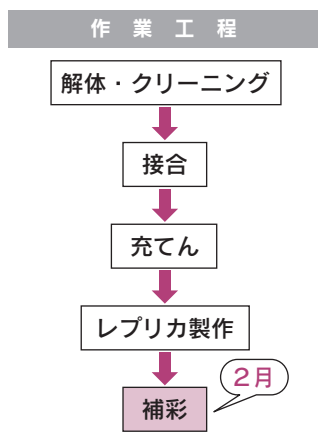
▲「いずみ」頭部・胴部接合完了



▲「いずみ」頭部・胴部接合部補彩完了



▲レプリカ彩色状況



写真提供・取材協力…府中工房 堀江武史氏

※この修復事業には(財)朝日新聞文化財団より助成を受けています

歴史民俗資料館 ☎ 52-1450

ふるさと見て歩き

第65回



ブラジル土産のワニ

▲ワニのはく製（メガネカイマンとみられる）

美和山村開発センターの玄関に置かれていた大きなワニのはく製。これは旧美和村高部出身の大森浅寿氏から贈られた物です。このワニの由来についてご紹介します。



◆ブラジル移民

日清、日露戦争の勝利により近代化を押し進める日本は、一方で財政基盤の大半をいまだに農民から徴収する地租に頼っていました。農村への負担の増加により都市へと人口が

流出し、人口過密となった都会では労働力の受け入れが追いつかず、失業者が増加していました。

当時、ブラジルではコーヒー栽培のための人員をアフリカからの人身売買により補充していましたが、一八八八年に奴隷の売買が禁じられたため労働力が不足していました。日本からの移民はそれを埋める労働力として期待されていました。

海外への移民は明治元年（一八六八）にすでに始まっています。行き先はハワイでした。しかし、雇用主からの移民への虐待が報じられたため、政府として積極的に推進することはありませんでした。

それから四十年後の明治四十一年（一九〇八）、政府公認の、最初のブラジル移民七百九十一人が「笠戸丸」に乗り込み神戸港から出港しました。笠戸丸は、その三年前の明治三十八年に東郷平八郎率いる連合艦隊がロシアのバルチック艦隊を破った日本海海戦での戦利品として得た船で、もとは病院船でした。外務省移民局が中心となって、「コーヒーを『金なる木』と宣伝し、日本で厳しい生活を強いられた人々を勧誘しました。ブラジルへ移民した人の総数は正確には把握できませんが、その数は笠戸丸以来、十三万人とも十八万人ともいわれています。

太平洋戦争が始まると、連合国側の立場をとるブラジルは日本を敵国とみなし、移民たちは危険にさらされるようになっていきました。日本

人であるという理由で地区から立ち退きを迫られたり、日本語の使用を禁じられたり、収監されることもあったようです。敗戦後もブラジル移民たちには正確な情報が伝えられず、日本の勝利が伝えられたり、一九五〇年代までブラジルの日本人学校では戦中の皇国教育に基づく教科書が使われていたりするような状況でした。当初はブラジルで成功して日本へ帰国するつもりだったブラジル移民たちは、ブラジルに住むことと葛藤しながらも徐々に精神的にも同化していったといわれています。

◇大森浅寿のブラジル移住

大森浅寿氏は、明治三十一年（一八九八）高部東河戸字梅ヶ草の農家に生まれました。大森氏の手記によれば、昭和三年（一九二八）、三十才の時、家族と共にブラジルに移住し、コーヒー農園を始めたことが分かります。ブラジル最大の都市サンパウロ市内のサンジョアキンに三年いたのを皮切りに、不作や流行病などによって四カ所の耕地を転々とする苦難の日々を過ごしました。昭和十二年に当時の居住地タクアリチンガ市に日本人会を創設、初代会長となり、その頃には農業は人を雇って行うようになっていました。日本語教育ができる教員を配置するのとにも、青年会を組織し柔剣道の指導にあたり、自ら師範を務めています。のちにサンパウロ市内に大森商会という自動車整備工場を開業し、成功

します。

ブラジルと日本を結ぶ長年の活動が認められ、昭和四十四年に海外日系人大会が主催した日本訪問団の一員に選ばれ、大森さんは移住以来初めて日本に帰国しました。四十一年ぶり、七十二才になっていました。一時帰国の際、大森さんはブラジルに移住する契機や移住後の生活、そして日本への一時帰国のことについて手記を残しています。そこには、懐かしい美和村に、当時日本では珍しかった二メートルを超えるワニを贈ったこと、同じ物を県庁にも贈り、喜ばれたことが記されています。



▲中央が大森浅寿さん、左は長姉のハツさん、右は末妹の川西きくさん

※大森正行さん、川西正則さん（聞き取り調査、かみね公園（ワニ種別問い合わせ）にご協力いただきました。

歴史民俗資料館大宮館

☎52-1450

家族で防災会議を

～家族で役割分担・危険な場所・連絡方法を確認しよう～

東日本大震災から1年の月日が過ぎました。震災前の生活に戻り、あの日の記憶がだんだん薄れてきてはいませんか。今日を契機にご家族で防災会議をしてみましょう。また発生するかもしれない大地震に、ご家族や地域での備えを再確認しましょう。

● 家族内で役割分担 ●

- ・ 日常の被害予防対策上の役割と災害時の役割の両方について決める。
- ・ 災害時の避難に支障のあるお年寄り、病人、小さな子どもがいる場合は、誰が保護を担当するかなども話し合う。

● 家具の配置と転倒防止対策 ●

- ・ 家具の配置換えによって家の中の安全なスペースを作れないか工夫する。
- ・ 家具の転倒や落下を防ぐ方法を考え、そのための工夫などがあれば教え合う。

玄関や廊下に家具は置かないようにしましょう。



● 危険場所のチェック ●

- ・ 家の内外をチェックして危険場所を確認し合う。
- ・ 危険な部分については、修理や補強の方法についても話し合う。

● 非常持ち出し品のチェック ●

- ・ 家族構成を考えながら必要な品がそろっているかチェックする。
- ・ 食料や水、乾電池等定期的に取り替える必要がある物は誰が担当するか話し合う。
- ・ 建物倒壊に備えて分散配置をする。（玄関、物置、車内等）

非常持ち出し品や備蓄品は、一度に持ち出さなくても構いません。状況に応じて、あとから取り出すこともできます。また、賞味期限や季節の変わり目もあるため、半年に一度は中身をチェックできれば理想的です。

● 避難時のポイント ●

- ・ 学校や職場など家族が離れている時の連絡方法や避難場所を確認しておく。
- ・ 避難先や連絡先を紙に書き出したり書いた紙をドアや壁にはったりする。

家のブレーカーは必ず切りましょう。熱帯魚のヒーターや電気ストーブから火が出た例もあります。



消防職員意見発表大会で努力賞



2月15日、石岡市中央公民館で、「消防防災」をテーマに、県内26消防本部の代表者が意見を発表する「第35回全国消防職員意見発表茨城県大会」が開かれました。この意見発表会は、消防職員が日頃の業務に対する問題等を考察し、これからの消防業務のあるべき姿や職務においての提案や取り組みを発表する場として毎年開かれています。

今年は、26人が業務や体験を踏まえた意見を発表し、当市からは西消防署の藤田大樹^{ひろ}副士長が、「大震災を体験して」と題して発表。

緊急消防援助隊員として福島県へ派遣された経験から、「いつ発生するかわからない大災害に備えるため日々訓練をし、もし発生した場合には、最善の活動ができるよう努力したい」と話し、努力賞を受賞しました。

青年海外協力隊員
石塚幹子さんから
お便りが届きました

コスタリカ から

Hola!

オラ



コスタリカ共和国の言語はスペイン語。Hola は「こんにちは」の意味です。



①下宿先の家族と火山観光

②国立劇場前の広場。地元の人や観光客が集まりにぎやか

③コスタリカ料理の「Casado (カサド)」という定食。お米と黒い豆は定番で、その他に、肉やサラダなどを選んで食べます

常陸大宮市の皆さんこんにちは。

常陸大宮市第1号の青年海外協力隊員として平成24年1月、中米のコスタリカ共和国に赴任した、石塚です。第1回は青年海外協力隊とコスタリカについて紹介したいと思います。

青年海外協力隊は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業の一つです。協力隊員は開発途上国に原則2年間派遣され、現地の人々と共に生活し、異なる文化・習慣に溶け込み、草の根レベルで途上国の抱える課題の解決を目指して活動します。現在約2500人の日本人が世界各国で活動しています。コスタリカでは11人の隊員が、生態調査、防災、栄養、教育、スポーツ等の分野で活動中です。

「コスタリカ」は、スペイン語で「豊かな海岸」を意味します。海に面し、また山に囲まれた自然豊かな国です。首都サンホセにおいても庭先や道路脇にマンゴー、バナナ、ココヤシなどの木々や色とりどりの花が咲いています。南北アメリカ大陸を結ぶ地域に位置し、日本との時差は15時間。遠い国にいる事を実感します。面積は約5万1千km²（四国と九州を合わせた位の大きさ）と小さな国です。サンホセなど高地部は年間25℃前後のため過ごしやすい気候ですが、低地部は年間気温が約30℃の熱帯気候です。季節は乾期（12月～4月）と雨期（5月～11月）に分かれていて、今は乾期のため雨はほとんど降りません。

主要産業は農業（コーヒー、バナナ、パイナップル）で、近年は製造業、観光業などが成長しています。

軍隊を持たない平和な国としても有名で、識字率は約96%と中米の中で最も高い水準です。また日本と同じ長寿国であるとともに、少子高齢化にも直面しています。

私は、オリエンテーションや語学訓練のため首都に1か月間滞在しました。その間、目にした衣食住に関してですが、高層ビルはほとんどありません。住居は、コンクリート造りで黄色、桃色、水色など色とりどりで鮮やかです。また、防犯のために家の周りは鉄格子で囲んであり、日本との違いを感じます。食事は、米と豆が主食で、肉、魚、野菜、果物と何でもあります。米は粘り気のないパサパサとしたインディカ米で、豆は小豆に似ています。毎日、下宿先の家族が美味しいご飯を作ってくれます。服装は、ジーンズにTシャツ姿の人を多く見かけます。全体的に人々の体形は、ふくよかな方が日本よりも多いようです。こちらでジーンズを買ってみました。伸縮性に富んでいました。食には気を付けて、野菜を多めに食べようと思っています。

2月中旬より、首都から地方のウパラという貧困地域に移り本格的に活動を開始しました。

これからもコスタリカからお便りをお届けしますので、どうぞよろしくお願いします。



大切な飼い犬を迷子にさせないために！



常陸大宮市では毎年多くの迷い犬が保護されていますが、飼い主の方から連絡がなく鑑札や迷子札も着いていないため、飼い主の元へ帰れない犬がいます。家族の一員である大切なペットを守るため、下記のことにご協力ください。

迷子にさせないために！

- ◆首輪がゆるんでないか、鎖が古くなっていないか、定期的に確認しましょう。
- ◆鑑札や注射済票を着けましょう。
鑑札や注射済票が着いていれば、市役所で保護した時飼い主が分かります。また、一般の人が保護した時のために迷子札も着けましょう。



▲迷子札を着けていれば迷子になっても安心

もし迷子になったら…

- ◆そのうち戻ってくると考えずすぐに探してください。犬は毎日移動します。日がたつにつれて離れて行ってしまいます。また、事故に遭う可能性もあります。
- ◆市役所環境課、各総合支所及び茨城県動物指導センターへご連絡ください。保護されているかもしれません。また、何か情報があるかもしれません。

●●● 連絡先 ●●●

○環境課 ☎52-1111 (内線123)
○各総合支所市民福祉課
山 方 ☎57-2121 美 和 ☎58-2111
緒 川 ☎56-2111 御前山 ☎55-2111
○茨城県動物指導センター ☎0296-72-1200

健康通信

常陸大宮済生会病院
副院長
小島 正幸先生

「男性更年期障害について」

全身の疲労感や意欲の減退、ED（勃起障害）など、これまで「年齢のせい」と片付けられてきた中高年男性に特有の心身の悩みが、男性更年期障害としてマスコミで大きく取り上げられるようになり、社会に浸透してきました。

原因は様々で、糖尿病やうつ病などによる場合もありますが、加齢によるアンドロゲン（男性ホルモン）の低下によるものを加齢男性性腺機能低下症候群（LOH症候群；ローショウコウグン）と呼ぶようになりました。

男性ホルモンは20歳代にピークを迎えてから徐々に低下していきますが、海外のデータでは、40歳代の2～5%、70歳代の30～70%で男性ホルモンの低下を認めています。（女性では50歳前後で閉経があり、卵巣機能がいちように低下するのと大きく異なります）

平成19年に、泌尿器科学会・日本メンズヘルス医学会が共同で、「加齢男性性腺機能低下症候群（LOH症候群）診療の手引き」を作成しました。これによると、LOH症候群は男性ホルモンが一定の基準値以下に低下して起こる様々な多臓器の機能障害を伴う疾患と定義されていて、症状、徴候は以下のものです。

- (1) 性欲と勃起能の質と頻度、とりわけ夜間睡眠時勃起の減退
- (2) 知的活動、認知力、見当識の低下及び疲労感、抑うつ、短気などに伴う気分変動
- (3) 睡眠障害
- (4) 筋容量(MRI等で筋の断面積を測定したりして計測)と筋力低下による除脂肪体重の減少
- (5) 内臓脂肪の増加
- (6) 体毛と皮膚の変化
- (7) 骨減少症と骨粗鬆症に伴う骨塩量の低下と骨折のリスク増加
(骨量が、20歳代～40歳代前半の平均骨量の70～80%の場合を骨減少症、70%未満の場合を骨粗鬆症という)

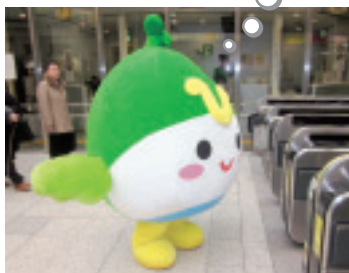
40歳以上でこれらの症状が男性ホルモンの低下によるものであれば、補充療法で改善する可能性があります。



※茨城県内では筑波大学附属病院泌尿器科に男性機能外来があり、男性更年期障害の診療が行われています。受診は予約制です。予約センター（☎029-853-3570）に電話してからお出掛けください。

ひたまるがゆく

みんなみたいに
かっこよく通り抜けて
みたいなあ～



▲願いかなわず(>_<)

「いばらき春の観光キャンペーン」 in上野駅

2月24日、上野駅に常陸大宮市の観光PRに行ってきました。

上野駅構内はたくさんの人が行き交い、ひたまるの目の前で改札口をさっそうと通り抜けて行きます。

そこで・・・改札口の通り抜けにチャレンジ！

でも・・・大きいひたまるにはやっぱり無理でした。

鷹巣戸内遺跡

平成23年10月から12月にかけて鷹巣地内で、市道改良事業に伴う鷹巣戸内遺跡発掘調査が実施されました。

鷹巣戸内遺跡は、中坪と戸ノ内と呼ばれる地区にまたがる遺跡で、今回は690㎡が調査対象となりました。小規模な調査区ながらも平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が多数確認され、また墨書土器や緑釉陶器が出土するなど、地域の歴史を考える上で貴重な発見がありました。



▲12月26日現地説明会。地元住民40人が参集

赤岩遺跡

平成23年12月から平成24年2月にかけて三美地内で、畑地帯総合整備事業に伴う赤岩遺跡発掘調査が実施されました。

三美地区に所在する赤岩遺跡の4,819㎡が今回の調査対象となり、古墳が1基発見されたほか、縄文、弥生、古墳、奈良、平安、室町時代と様々な時代の遺構・遺物が確認されました。

中でも古墳の新規発見は、三美地区のみならず那珂川流域一帯の歴史の研究に大きな影響を与える発見です。



▲2月19日現地説明会。地元住民60人が参集

広報 常陸大宮 3月 第90号

発行日 平成24年3月26日

発行／常陸大宮市

編集／企画課

〒319-2292

茨城県常陸大宮市中富町3135-6

TEL 0295(52)1111 FAX 0295(53)6010

E-mail email@city.hitachiomiya.lg.jp

URL http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/



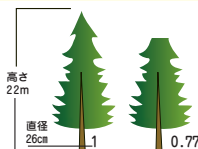
常陸大宮市の人口（3月1日現在・推計常住者）

総人口 44,363人（男 21,714人 女 22,649人）

世帯数 16,136世帯

この印刷物は、常陸大宮市役所が、印刷プロセスで使用する2.44kgのアルミ板をリユースして印刷する事で、

CO2排出量を24.75kg削減しました。



24.75kgのCO2削減量とは
樹齢50年(高さ22m・直径26cm)の杉の木約1.77本分が
1年間に吸収するCO2量に匹敵します。

（出典：林業白書）

常陸大宮市役所は、MCPによる印刷を通じ、インドネシア・バリ州の森林再生事業(国立公園内の植樹3,000本)に参加しています。